

先日、熊本での研修のついでに、わが園に新しく作ったターザンロープ等の園庭遊具を見学させてほしいと、福岡より山田眞理子先生が来園されました。せっかくの機会でしたので園内研修をお願いし、職員みんなで共通理解を深める機会を得ることができました。

山田先生のお話を聞いて、乳幼児期の保育で大切なことは、やはり学校教育を先取りしたような学習などではなく、毎日心から安心して過ごし、いろんなことに興味を持って楽しく遊ぶという経験が、のちに学校へあがったあとも、自ら学び続ける意欲につながっていくのだと改めて感じました。今回は、0・1・2歳児の保育についてのお話を中心に研修して頂いたのですが、すべての子どもに通じることも多くありましたので、少しだけ紹介させていただきます。

そもそも、「学び続ける意欲を持った子ども」を育てるために必要なことは・・・。

- ① 幼いころから、「自分は生きていていいんだ」、「生きるって楽しい」、「生きてると良いことある」と感じられるような、「生きること」に対する安心感が生活のベースにあることが、もっとも重要です。
- ② そして、「自分のことが好き」、「自分って結構いいところがある」と思える自尊感情、自己肯定感が必要です。
- ③ さらに、「学んだことを生かせる環境」、「やってみたいことがやれる環境」「やれる自由とやれる環境」が必要であるということ。せっかく学んでも、やらせてもらえなかったり、出来る環境がなければ、学んだことに意味を見いだせず、次に学ぶ意欲も失せてしまいます。
- ④ そして、「自分のやったことが人の役に立った」と感じられること、あるいは「人が役に立ってくれる」と感じられること、「やったことをきちんと認めてもらえる」ことなども必要です。

学び続ける意欲を持つためには、これら4つのことが大切なのですが、毎日の保育園生活のなかで、子どもたちが「生きるってステキなこと、生きるっていいな」って思っているか？「自分ってステキ、自分はイケてる」と思える瞬間があるか？「自分のやったことを大人が褒めてくれた」とか、「ちゃんと認めてもらえた」と感じているか？ さらに、「自分のしたことが人の役に立った」と感じられる体験が、今日の1日の保育の中にあっただろうか、毎日の保育の中で実践されているのか？ といったことを私たち保育者は、しっかり見て、考えていかなければなりません。

「子どもは今に生きている」存在なので「明日やろう」、「今度やろう」ではダメ。常に子どもに安心感を与える保育を心がけなくてはなりません。0・1歳の子には特に必要なこと。

保育を、保育者が行うと考えるのではなく、子どもの人生の最初の大切な時期に、その子の人生の基盤のとても重要な時間を、私たち保育者がもらって、その時間で保育をさせてもらっていると考える。

そう考えたら、その時間がその子にとって、あったかくて、うれしくて、幸せな時間でなければ申し訳ない。何より、その子の安心感、その子の幸せを考えた保育を！

本当にその通りだなあと感じました。子どもたちが心から安心して、温かくて、うれしくて、幸せを感じられるような保育を行なっていきたいと思います。